

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

② 施設・事業所情報

名称：木下の保育園 綱島東	種別：認可保育所
代表者氏名：小林 千鶴子	定員（利用人数）： 78 名
所在地：神奈川県横浜市港北区綱島東4-5-35	
TEL：045-543-6506	ホームページ：https://www.kinoshita-hoiku.com/facility/tsunashimahigashi
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育	
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員：11名
専門職員	保育士 15名 管理栄養士 1名
	保育補助 4名 調理師 2名
	看護師 1名 事務・他 2名
施設・設備の概要	乳児室、1歳児室、2歳児室、3歳児室、4歳児室、5歳児室、調乳室
	トイレ、バリアフリースイレ、屋外遊技場
施設・設備の概要	事務室、医務室、調理室 設備：冷暖房、エレベーター

③ 理念・基本方針

保育理念 “生きる力を創る”

保育方針

- ・協調性を持ち、他者を尊重し認め合う心を育てる
- ・のびのびと自己表現ができる環境を提供する
- ・試行錯誤をすることで考え創造し、自分で判断する力を養う
- ・探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

利用者のニーズをとらえ、保護者支援に力を入れている。連絡帳アプリを積極的に活用し日々の子どもの様子や連絡事項の伝達をしたり、おむつサブスク립ションの導入を実施している。また地域支援としてドロップサテライトでの講和などを行っている。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年4月12日（契約日） ～ 2025年 4 月 7 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（令和元年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

特に評価の高い点

1) 【幼児期からクラスの単位に拘らず、子ども達の発達に合わせた柔軟な保育形態を展開し目指す保育実現に近づこうと努力している】

園長、主任を筆頭に職員が団結し課題解決や新規提案に対し前向きに検討している様

子が伺える。園全体に「課題解決し現状より良い保育を提供したい」という思いが強く、既存のやり方や慣習に流される事無く、今年度在籍している子どもにとっての最善は何かを大切に、常にやり方や保育の流れ、環境設定や職員の動きを検証し柔軟に変更をして前向きに取り組む姿勢は良い。0～2歳の乳児においては毎年月齢が高い、低い等子どもの構成自体が一定ではないためその年の子どもに適した環境を再構築し、クラス在籍とは別にクラス編成を飛び越えた現状の子どもの成長に合わせた小集団を編成し続けている。幼児においては既に縦割り編成が構築されており根付いているため、更に保育内容の幅を広げて行く状況が期待される。

2) 【異年齢保育を中心とする保育が確立され、子どもたち同士の思いやりや憧れの気持ち、主体性を育てている】

幼児クラスでは、縦割りのグループを意図的に決めて異年齢保育を実施するのではなく、活動内容に対して、子どもたちがどの活動に参加するかを選び、子どもの人数に合わせて職員配置を行い援助している。保育室は、幼児クラス全体を使ってコーナー保育の環境設定をしていて、子どものその時の遊びたい気持ちを尊重できるように組み立てている。一日を通して、食事や着脱等の養護の活動においても年齢毎に区分けすることなく、子どもたちが状況に合わせて判断し食事時間と場所が決められ、その行動に合わせて、職員が各々場所において見守りながら指導を行っている。また、フロアーが違う乳児との関わりは、遊びやお手伝い活動等保育士が意図した場面や子どもたちの希望により設定し2歳児が幼児クラスへの移行をスムーズにできるよう配慮している。子ども達の主体性を尊重する取り組みが園として意識されている。

3) 【自ら選択できる環境を整えた保育は、それ自体が子どもたちを尊重し、職員間の信頼関係にも寄与している】

一日を通した異年齢保育の中で、活動や生活において選択肢があり、子どもたちの年齢やペースに合わせた設定を行い、子どもの意思を尊重している。例えば、毎朝、実施しているサークルタイム（朝の会）でその日の活動を子どもたちに知らせ、どの活動を選ぶかは子どもが決めるようにしている。散歩の行き先は職員が複数設定し、ボードの公園の写真で行先を示した中から子どもたちが自分（写真）のカードを置いて意思表示したり、制作活動では年齢関係なくやりたい気持ちを受け止めて行えるように保育士が援助をしている。乳児では、玩具の入れ替え時、子どもたちの要望や興味を持っているタイミングを見極め、子ども同士での遊びがさらに発展するように関わっている。子どもたちが戸惑いなく安心して意思表示ができるこのような環境を今後も継続していくことを期待したい。選択肢を子どもたちに与えることは、職員自身も子ども達を尊重することになり、このような環境を職員が話し合うことによって、職員間の信頼関係も構築できるようになっている点は素晴らしい。

今後さらに期待される点

1) 【幼児クラスの縦割り化は既に充実しているが、一人ずつの発達を更に捉えるためのバックヤードの効率化が必要である】

3・4・5歳児は既に縦割り化をし、人的・物的環境整備はされていると言って良いだろう。また、各場所への子どもの参加は分かりやすく掲示版により明示され、玩具等も子どもサイズに準備されている。また個人の引き出し等により、作成中のものも継続し続けられる仕組みも配慮されている。複数担任で、幼児クラスの子どもの全体を見ているため職員それぞれの役割や、当日の記録を含む「子どもの姿を見逃さない」工夫が必要になってくるだろう。ドキュメンテーションの蓄積や職員が子どもに関す

る「気づきメモ」の今後の共有、縦割りの1クラス編成ゆえの1枚に3クラスの内容明記をするなど書類の効率化が出来る部分は効率化し、工夫次第で時間短縮にさらに繋がる事を多くすべきであろう。今後の流れに期待したい。

2) 【異年齢保育を実施する中で、年齢発達に応じた保育のねらいや内容を明確にした指導計画の作成や記録方法を工夫することを期待する】

異年齢保育では、異年齢の子ども同士による思いやりや憧れの気持ち、活動での学び等相互作用で育ちあうことが大きく、日々の活動や生活場面での子どもたちの成長が豊かなものになっている。しかし、異年齢では子どもの発達差が大きいいため、各年齢での発達の把握も必要になる。指導計画の活動のねらいや内容など年齢ごとの発達段階を明確にし、一人ひとりの子どもの状態を記録したものを、職員間で確実に共有することが必要になる。その都度、口頭で行っている保育士間の情報共有を、今後はより明確化するために記録の取り方も工夫してほしい。具体的には、異年齢で育つものと年齢発達で成長していることを踏まえ、より子ども同士での多様な関わりが経験できるよう、適切な環境構成を再考した方が良いだろう。各保育士の意識的かつ意図的な支援に期待したい。

3) 【園の良さやオリジナリティを言語化・具現化し、その根拠も明確にしてほしい】

現場チームワークや職員全体のポテンシャルをさらに引き出すためには、企画や一つひとつの業務が、一貫した理念（原則）に基づくものであることが肝要である。写真一つ壁に貼ることも「ねらい」が定まっているとしないとでは熱量に雲泥の差が生じてしまう。たとえ前任者の始めたことであっても職員みなが納得できる理由やねらいがあり、ほかの職員に伝わっていれば、その熱は生き続けることができる。逆に言えば今実行している“良いこと”も「ねらい」が定まっていなければ、その“良いこと”本来のポテンシャルは発揮されない。法人理念を大原則として、園に与えられている権限内で最大限に「ねらい」を言語化し、職員全体として力を注ぐ方向性を明確にするなら園全体はさらに一致したものとなり職員一人ひとりの本来の力を発揮させ、園全体が持つ魅力の部分をひきだすことができるのではないだろうか。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

監査以上に色々な観点からのご指摘を頂き、今後改善していかなければいけない内容が明確になりました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり